

第三講 「言うまでもない」言葉

「言うまでもない」……「彼が作る料理は言うまでもなく不味い」  
「言い尽くすことができない」……「あの小説は言い尽くせないほど面白い」



「言うまでもないほど＋・－」や「言い尽くすことができないほど＋・－」

Ex. 「夏は夜、月のころは さらなり。」



夏は夜（が素晴らしい）、月が出る頃は言うまでもない（言う必要のないほどよい）

いはむかたなし・いふもおろかなり・いへばおろかなり  
いへばさらなり・いふもさらなり  
さらなり・さらにもいへず・さらにもあらず

※「えもいはず」という表現がありこれは「なんともいいようのない」の意。

Ex. 闇もまたをかし。有り明けはた いふもおろかなり。

訳 闇の夜も同様に趣がある。有明の月（の趣）はまた 言うまでもない。

いはむかたなく むくつけげなるもの来て……

訳 言いようもなく 恐ろしそうなものが来て……

供養の日のありさまのめでたきは さらにもあらず や

訳 供養の日の様子もすばらしさは 今更言うまでもない ことだよ

えもいはず 茂りわたりていと恐ろしげなり……

訳 なんともいいようもなく（木々は）一面に生い茂ってとても恐ろしい様子だ……

## 動詞 2

## 例文

① 歩く (カ行四段)・・・移動する・出歩く

歩き(～して)まわる

① 舟に乗りて海ごとにありき給ふに  
↓舟に乗ってあちこちの海を漕ぎまわりなさ  
るうちに

※動詞の連用形についた「歩く」は補助動詞でカ行四段となり、「～てまわる」「あちこちで～する」という意。

※よろしき姿したる者、ひたすらに家ごとに乞ひありく

② 率 (ワ行上一段)・・・連れる・伴う

持つ

↓まあまあの姿をした者が、ただただ家ごとに物乞いをしてまわる。

※同音に「居る (ワ行上一)」があり「座る」

「とどまる」「住む」の意。

② ※ぬむとするところを、まづ扇して  
↓座ろうとする場所を、最初に扇で

③ 具す (サ変)・・・★連れていく・伴う

持つ・備える

↓京都にいる医者所へ、連れて行った道々  
忍びてゐてわたさせ給ふ

※「具す」は元々備わっている感じで、「率る」は自分から働きかけて連れていくという感じ。

↓こつそりと持参してお移しになられる

④ 渡る (ラ行四段)・・・通る・行く・来る

～し続ける・一面に～する

↓人柄や容姿などがたいそうに、こんなにも備わっているように

「主に空間的な移動を示すのが基本の意味。

だから『行く・来る・通る』の中から文脈

で意味を判断する。また、空間的な継続状

態が『一面に～する』となり、時間的な継

続状態が『ずっと～する』となる。なお、

この二つは動詞の連用についた時の意味

にあることが多い」

④ ある御達の局の前をわたりけるに

↓ある高貴な女房の局(部屋)の前を通ったと  
きに

※万代に年は来経(きふ)とも梅の花絶ゆること  
となく咲きわたるべし

↓万代までも年は毎年やって来ては去って行く  
けれど、梅の花は絶えることなくずっと咲  
き続けるのだろう

⑤ 急ぐ (ガ行四段)・・・★準備(用意)する

急ぐ

↓下るのに必要なことをいろいろと用意する  
が

杉の渡し寄せんとてまうけたる舟どもを

↓杉の渡し場から攻め寄せようとしても、前も  
って用意した舟々を

※「急いで準備する」って覚えればok

関連語に「設く(カ行下二)」「認む(マ

行下二)」がありこれも「準備する」や、

「用意する」の意。